

令和4年度

採材現地検討会及び大槌・気仙川流域の林業労働災害防止講話

9月13日（火）、気仙郡住田町の子飼沢国有林62林班において、岩手県、大船渡市、陸前高田市、住田町、関係林業団体、当署職員含め65名が参加し採材現地検討会を開催しました。

今回も受付で検温、消毒やマスクの着用等の新型コロナ感染症対策をとりながらの検討会となりました。

署長挨拶の後、現地概要、採材検討の説明があり、その後5班に分かれて各班ごとに事前に準備した、クリ・ミズナラ・ミズメ・ホオノキ・ミズキを実際に班ごとに色の違うテープで採材表示し、採材理由も含め各班の代表が発表しました。

それぞれ一本ごとに、岩手県森林組合連合会の方から最適と思われる採材方法をご教授いただきました。また、樹種によっては伐採する季節により木材の価値が変わるものも有るため伐採時期を念頭に置いて欲しいこと、岩手県は、広葉樹の宝庫であり、現在ロシアからの輸入材が見込めない中、少しでも用材が取れるよう吟味して採材してもらいたい旨の講評がありました。



採材検討の様子



採材検討後にチェーンソーで造材した様子

森林組合連合会による講評

午後、会場を移して住田町役場庁舎町民ホールで県内の林業事業者をはじめ県、管内市町の林務担当者など55名が参加し、大船渡労働基準監督署鈴木 徹 地方産業安全専門官から令和3年、令和4年に東北で発生した林業における死亡労働災害事例を挙げ、安全の基本ルールを守ることが大事、災害事例でさまざまな災害パターンを再確認しました。

また、岩手（東北）は、全国最多の死亡災害発生件数で今回、林災防岩手県支部が林業死亡労働災害多発警戒期間中の開催となり、参加者は真剣に講師の話に耳を傾けていました。



労働災害防止講話の様子